

第五次和光市総合振興計画

基本構想

構想骨子（案）

構想骨子(案)

目 次

将来都市像.....	1
市民生活の目標像.....	3
目標像 1 良好な居住環境が得られる.....	5
目標像 2 安全かつ快適に移動できる.....	5
目標像 3 身の回りの不安が軽減される.....	6
目標像 4 子どもが自己肯定感を持ち健やかに育つ.....	6
目標像 5 安心して妊娠・出産・子育てができる.....	7
目標像 6 高齢になっても、住み慣れた地域で暮らし続けられる.....	7
目標像 7 誰もが、自立した生活と社会参加ができる.....	8
目標像 8 健康で日々を暮らしている.....	8
目標像 9 いきいきと仕事をし続けられる.....	9
目標像 10 趣味などを通して充実した時間を過ごせる.....	9
目標像 11 まちや人とつながり、心豊かに過ごす.....	10
目標像 12 シビックプライドを持つ.....	10

将来都市像

みんなをつなぐ ワクワクふるさと 和光

ご近所さん同士をつなぐ
子どもとお年寄りをつなぐ
困っている人と誰かの助けになりたいと思っている人をつなぐ
趣味や興味が似ている人をつなぐ
農作物をつくる人と食べる人をつなぐ
引っ越してきた人と住んでいる地域をつなぐ
他のまちや国に暮らす人をつなぐ
大事にしているものを次の世代へとつなぐ
次の出会いが待ち遠しくなる

つながると
今よりも安心して毎日を過ごせる
居心地が良い場所が見つかる
日常の中にちょっとした楽しみが生まれる
世界が広がったり、新たな発見があったりする
新しい何かが起こる予感
ワクワクが生まれる

都会の近くにある、豊かな自然やのどかさが残っているまち
そばで見守ってくれる人や一緒に楽しめる仲間がいるまち
ふるさと和光

いろんな人やモノゴトがつながる中で
期待と愛着を感じられ、住んで良かったとみんなが思える
そんな和光市を目指します

「みんなを」

第四次和光市総合振興計画における将来都市像「みんなでつくる 快適環境都市 わこう」の考え方を継承し、まちづくりの主体は市民をはじめとした「みんな」であることを示しています。

そのうえで、市内だけにとどまらず、他都市や世界とのつながりなども視野に入れ、積極的につなげていく意思を表明するために、「みんなで」や「みんなが」ではなく、「みんなを」という表現にしています。

「つなぐ」

総合振興計画策定に向けて開催した和光 100 年まちづくり会議では、住み続けたいまちになっていくためには、人と人とのつながりが豊かであることが重要であるという意見が多く出されました。若い世代の転出入が特徴の 1 つである和光市においては、人とのつながりが自然発生的に生まれるのを待つだけではなく、意識的につながりを作っていくことが求められます。

また、人のつながりだけではなく、道路や交通などを含めたインフラ面でのネットワークを強化していくことや、大切な自然環境や歴史資源などを次世代に引き継いでいくことも「つなぐ」という言葉に込めています。

「ワクワク」

和光市に暮らす人にとっても訪れる人にとっても、「楽しい」と感じられたり「楽しいことがある」と思えたりできるようなワクワク感のあるまちを目指します。ワクワクには「湧く」や「沸く」という漢字を当てはめることができ、活力や賑わいがあり、新しいことが次々と沸き立つような状態をイメージしています。

また、「湧く」という言葉の中には、和光市の大切な地域資源である「湧き水」を掛けており、和光市の特徴である自然資源を守っていく意思を示しています。

「ふるさと」

和光市は東京都心部に直結する立地にありながら、緑が豊かで潤いのあるまちであり、そうした都市と田舎の良さを兼ね備えた状態を維持していくことを「ふるさと」という言葉に込めています。

また、和光市に愛着やシビックプライド（※）を持つことで、和光市を「ふるさと」と感じ、いつまでも住み続けたいと思える市民を増やしていきます。

※：都市に対する市民の誇りのこと。自分自身が関わって地域を良くしていこうとする、当事者意識に基づく自負心。

市民生活の目標像

心豊かに、満足度の高い
生活が送れる

目標像 10

趣味などを通して
充実した時間を過ごせる



目標像 11

まちや人とつながり、
心豊かに過ごす



目標像 12

シビックプライドを
持つ



誰も取り残さない SDGsの考え方に基づき、
それぞれのライフステージを充実させる

目標像 4

子どもが
自己肯定感を持ち
健やかに育つ



目標像 5

安心して
妊娠・出産・
子育てができる



目標像 6

高齢になっても、
住み慣れた地域で
暮らし続けられる



目標像 7

誰もが、
自立した生活と
社会参加ができる



健康で働き続ける
ことができる

目標像 8

健康で日々を
暮らしている



目標像 9

いきいきと
仕事を
し続けられる



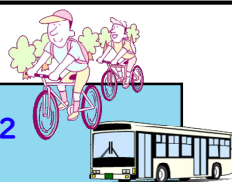
目標像 1

良好な居住環境が
得られる



目標像 2

安全かつ快適に
移動できる



目標像 3

身の回りの不安が
軽減される



日々の生活の基盤が整っている

将来都市像「みんなをつなぐ ワクワクふるさと 和光」を実現するため、和光市で生活する一人ひとりの市民生活をイメージして「市民生活の目標像」を設定しました。

目標像1「良好な居住環境が得られる」、目標像2「安全かつ快適に移動できる」、目標像3「身の回りの不安が軽減される」については、日々の生活の基盤が整っている状態を示す目標像です。

「つながり」や「ワクワク」などの豊かな気持ちができるようにするためにも、まずはその前提として、生活の基盤が整っていることが必須となります。そのため、良質な居住環境が得られるとともに、身の回りの不安が軽減された状態としていく必要があります。また、高齢化などに伴い、移動手段の確保の重要性が高まってきたことを踏まえ、安全かつ快適に移動できる環境を整えることが必要です。

目標像4「子どもが自己肯定感を持ち健やかに育つ」、目標像5「安心して妊娠・出産・子育てができる」、目標像6「高齢になっても住み慣れた地域で暮らし続けられる」、目標像7「誰もが、自立した生活と社会参加ができる」については、それぞれのライフステージごとの目標像です。

誰しも人生の中には様々なライフステージがあり、その中には特に周りのサポートが必要なステージもあります。そうしたライフステージにあっても、誰もがそれぞれのライフステージで充実した生活を送れることを目指します。

国連サミットで採択された2030年までの国際目標であるSDGs（Sustainable Development Goals）では、誰も取り残さない世界の実現を目指すこととされていますが、本市においても苦しい状態にある方を取り残すことのない地域を目指します。

目標像8「健康で日々を暮らしている」、目標像9「いきいきと仕事をし続けられる」については、健康で働き続けることができている状態を示す目標像です。

この長寿社会の中で長く健康でいられるためには、一人ひとりが健康づくりに取り組むことが必要です。また、働きかたが多様化する中でいきいきと働き続けられるためには、市内産業の充実などを通じ、法人・個人ともに、仕事をし続けられる環境が求められます。

最後に目標像10「趣味などを通じて充実した時間を過ごせる」、目標像11「まちや人とつながり、心豊かに過ごす」、目標像12「シビックプライドを持つ」については、これまでの目標像1から目標像9までの状態に支えられ、心豊かに、満足度の高い生活が送れる状態を示しています。

日々をワクワクして過ごし、人とつながりながら心豊かに過ごすとともに、和光市を「ふるさと」として意識することでシビックプライドを持ちながら、「みんなをつなぐ ワクワクふるさと 和光」をみんなで作っていくことを目指します。

目標像 1 良好な居住環境が得られる

【どのような姿を目指したいのか】

- ・利便性と快適性を備えた住みやすい居住環境が整っている
- ・災害に強いインフラ・ライフラインが整っている
- ・和光市駅周辺が和光の顔となる魅力的な場となっている

【主要な課題】

- ・和光市駅北口の区画整理事業による駅前広場整備が完了しておらず、駅北口周辺の防災・防犯面や交通・商業等の拠点性の観点から課題があります。
- ・市内各所に農地や斜面林が残っており、緑などの潤いを感じられますが、宅地の無秩序な開発が進むことで、これらが失われつつあります。
- ・ごみ焼却施設である清掃センターが平成2年3月の竣工から約30年が経過し、老朽化が進んでいます。

目標像 2 安全かつ快適に移動できる

【どのような姿を目指したいのか】

- ・歩行者や自転車利用者の安全性が確保されている
- ・トラックなどの通過交通が抑制されている
- ・公共交通の利便性が高い
- ・新たなテクノロジーに対応した快適な交通環境が得られる

【主要な課題】

- ・高齢化に伴い自家用車を手放さなければならない方が増えていくなか、既存の公共交通等だけでは移動のニーズが充足できていません。
- ・坂が多く、体が弱ると移動が困難になりやすい地域があります。
- ・市境など、和光市駅や和光市役所までの交通アクセスが円滑ではないエリアがあります。
- ・安全な歩道空間が十分に確保されていないなか、自転車で移動する市民が多いため、日々の歩行に不安があります。
- ・一般国道254号和光富士見バイパスが外環道と交差する地点までとなっており、都内につながっていない幹線道路があることから、生活道路にトラックなどが流入しています。

目標像 3 身の回りの不安が軽減される

【どのような姿を目指したいのか】

- ・災害や犯罪などへの対策が整っている
- ・身近な問題を気軽に相談できる窓口や相手があり、安心して生活できる
- ・環境問題に対して適切な対応ができている
- ・差別などが無く、お互いの個性を尊重しあえる

【主要な課題】

- ・市内の外国人人口が増加するとともに、社会的なマイノリティの概念の多様化が進んでいます。
- ・転入転出が多いことなどから、地域コミュニティの中で、災害時などを含め、周りに相談できる人が少ない状況にある方が多く存在しています。
- ・水害時などの浸水や土砂災害などのリスクがある地域があります。
- ・廃プラスチック問題や食品ロス問題など、新たな環境問題が生じています。
- ・悪徳商法や振り込め詐欺などの犯罪手口が年々複雑・巧妙となっています。

目標像 4 子どもが自己肯定感を持ち健やかに育つ

【どのような姿を目指したいのか】

- ・子ども一人ひとりが、「自らをかけがえのない存在」という感覚を持っている
- ・子ども一人ひとりが、学習の大切さを自覚し、進んで学ぼうとしている
- ・子どもが、心身ともに健康に、自分らしく育つ権利である「子どもの権利」が保証されている
- ・子どもが放課後など、安心して居られる寂しくない居場所がある
- ・地域が、子どもたちの支えになっている

【主要な課題】

- ・都心で働く保護者が特に多い地域であるため、子どもの放課後の居場所の確保が重要になっています。
- ・昔と比べると地域のつながりが希薄になり、地域の大人が子どもに声をかけづらいなど、顔の見える関係を築きづらくなっています。
- ・白子小学校・新倉小学校のピロティ校舎及び第三小学校など学校施設の老朽化が進んでいます。
- ・大和中学校など、児童・生徒数の増加に伴う狭隘化が課題となっている学校があります。
- ・プログラミング教育や英語教育など、新たな教育ニーズに対応する必要性が生じてきています。

目標像5 安心して妊娠・出産・子育てができる

【どのような姿を目指したいのか】

- ・子どもが欲しい人、子育てをしている人が、不安なく希望を持って子育てに向かうことができる
- ・子どもを安心して預けられる環境が整っている

【主要な課題】

- ・子育て世代の家庭が定着せず、市外に転出してしまいます。
- ・近年社会問題になっている児童虐待の問題等に適切に対応する必要があります。
- ・これまでもわこう版ネウボラを展開し、切れ目のない子育て支援を進めてきましたが、今後も個々の親子の課題に寄り添った支援を続けていく必要があります。
- ・保育ニーズを満たすため保育施設の確保を進めてきましたが、待機児童が一定数存在するなど、保育ニーズを充足しきれていません。
- ・保育士人材や用地の確保の制約などから、保育施設を急速に増加させることは困難な状況となっています。

目標像6 高齢になっても、住み慣れた地域で暮らし続けられる

【どのような姿を目指したいのか】

- ・高齢者のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）が高く、生きがいを持って、住み慣れた地域で暮らしている
- ・高齢になっても、自らの力を地域に生かせる
- ・家族介護者の身体的・精神的な負担が軽減されている

【主要な課題】

- ・本市は高齢化率は低いものの、高齢者数の増加に伴い、社会福祉関連経費の増加が続くことが予想されます。
- ・独居の高齢者が増えてきていることから、孤独死のリスクが高まっています。
- ・これまでも地域包括ケアシステムなど先進的な取組を進めてきましたが、今後も支援を要する方との関わりを深めていく必要があります。

目標像 7 誰もが、自立した生活と社会参加ができる

【どのような姿を目指したいのか】

- ・ 障害者が社会参加や就労ができる
- ・ 障害者が生活をするなかで困らない
- ・ 経済的に困っている人が将来への希望を持てる

【主要な課題】

- ・ 障害者の社会参加や就労に向けて、その前提として、不自由なく移動できる環境など、ユニバーサルデザインが必要となります。
- ・ 障害の種類が多様化しており、それぞれの態様に応じたきめ細やかな配慮が求められています。
- ・ 自立できない事情を抱える家族を養育する高齢者が深刻な生活上の課題を抱える「8050問題」の顕在化が進みます。

目標像 8 健康で日々を暮らしている

【どのような姿を目指したいのか】

- ・ 一人ひとりの意識と努力でみんなの健康が維持されている
- ・ 保健事業の推進などにより、医療費が適正に維持されている
- ・ 地域の医療環境が充実しており安心して暮らせる

【主要な課題】

- ・ 健康づくりは個人の意識に大きく委ねられるため、機会を捉えた継続的な意識づけが必要となります。
- ・ 国民健康保険制度の構造的な課題などにより、国民健康保険財政運営がより一層厳しいものとなる可能性があります。

目標像 9 いきいきと仕事をし続けられる

【どのような姿を目指したいのか】

- ・個人商店など市内の商工業に活気があり、まちの魅力がある
- ・農地が適切に保全され、農ある暮らしを楽しめる
- ・和光市の立地を生かした産業が発展し、まちが元気である
- ・市内で起業することや、事業を承継することができる
- ・働きたい人が、仕事を見つけ、働くことができる

【主要な課題】

- ・埼玉県が進める一般国道254号和光富士見バイパスの延伸計画の進展に伴い、和光北インター地区の東側においても産業拠点としての整備を望む声が多くなっています。
- ・理化学研究所など知の集積といえる機関が立地していますが、それを生かした産業振興はあまり進んでいません。
- ・古くからある個人商店や農地などが少なくなってきました。
- ・市内に魅力的なお店がもっとあると良いと思っている市民が多い状況です。

目標像 10 趣味などを通して充実した時間を過ごせる

【どのような姿を目指したいのか】

- ・みんなが趣味やスポーツなどを通じて充実した人生を送っている
- ・趣味やスポーツを始めたい人が、きっかけに出会える

【主要な課題】

- ・市主催の企画のほか市民主催の企画などを含め、市民が参加できる様々なイベントが開催されていますが、場所や日時などの都合で参加しづらかったり、開催情報が十分に行き届かなかったりして、活動に参加しない市民が多いです。
- ・長年活動されている市民団体においては構成員の高齢化が進むことで、活動等を牽引する担い手が不足するようになっています。

目標像 11 まちや人とつながり、心豊かに過ごす

【どのような姿を目指したいのか】

- ・地域活動を通して、人とつながり、心豊かに過ごしている
- ・みんなが地域とつながり、困ったときや災害時に孤立しない
- ・外国人も地域に馴染みやすい環境が整っている

【主要な課題】

- ・自治会加入率が低くなってきており、地域コミュニティにつながっていない方が増えてきています。
- ・地域コミュニティの担い手の高齢化が進んでいます。

目標像 12 シビックプライドを持つ

【どのような姿を目指したいのか】

- ・市民が和光市に住み続けたいと思っている
- ・和光市を訪れたい、住んでみたいと思われている
- ・みんなが地域の資源を知っている

【主要な課題】

- ・多種多様な歴史資源・自然資源などがあるものの、市民にも広く認知されていないし、市外にも十分に認知されていないのが現状です。
- ・湧水、斜面林などの自然資源が開発などを通じて徐々に失われつつあります。